

短 報

愛媛県今治市で採集されたアマミサソリモドキについて

大西 剛*

Record of the *Typopeltis stimpsonii* (Wood, 1862) from Imabari City, Ehime Prefecture, Japan
OHNISHI Tsuyoshi

Abstract : *Typopeltis stimpsonii* (Wood, 1862) is recorded from Imabari city, Ehime prefecture in the autumn of 2017. *Typopeltis stimpsonii* was found from Imabari city since 1990. But Museum did not have it until now, collected it.

キーワード : アマミサソリモドキ, 今治市

Key words : *Typopeltis stimpsonii* (Wood, 1862), Imabari city

はじめに

アマミサソリモドキは日本に1科2種を産する大型のクモガタ類の1種で、一見サソリのように見える体形をしており、尾が鞭状になっているのが特徴である。本種は日本列島の固有種であり、徳之島以北の琉球列島と九州南部に分布するほか、伊豆諸島の八丈島にも移入個体が定着しており、本州・四国各地でも偶発的に発見されている。天草下島南端の旧牛深市域に生息する本種は北限の個体群といわれ、熊本県の天然記念物に指定されているが、移入である可能性が指摘されている。四国島内にも高知県西南部の幡多郡大月町に生息確認地があり、高知県版レッドデータブックでは絶滅危惧IB類(EN)に指定されていたが、県内の他地域でも定着が確認されたため2017年の改定で除外されている。

本種は愛媛県でも今治市の一部で1990年以後連続して確認されており、定着していると考えられている(青木・杉山, 1995)。博物館では標本が収蔵されていなかったが、今回一般の方より本種を採集したとの連絡があり、博物館で標本として収蔵したので報告する。

経 緯

2017年11月8日に愛媛県今治市に在住の長井宏仁氏より「庭でサソリモドキと思われる昆虫を捕獲した。駆除したいが熊本県では天然記念物にも指定されており、どうすればいいか教えてほしい。」との連絡があった。送付された画像を確認したところアマミサソリモドキで

あることが確認されたため、11日に氏が採集した1個体を館に寄贈していただいた。採集場所近くには放置されたカナリーヤシの大木があり、もともとこのような観葉植物に混入して移入された個体が累代繁殖している可能性が考えられる。同個体は数日で死亡したため博物館で標本とし、登録番号EPSM-815-1として保管している。

EPSM-815-1 アマミサソリモドキ
2017. 11. 9 愛媛県今治市中寺 長井宏仁

謝 辞

本種を採集し寄贈して下さった長井宏仁氏にお礼申し上げます。

参 考

国立環境研究所, 侵入生物データベース. (<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/>) (2018年5月30日閲覧).

青木淳一・杉山 隆 (1995): 「愛媛県に生息するサソリモドキについて [講演要旨]」. *Acta Arachnologica*, 44 (2): 193

高知県林業振興環境部環境共生課 (2017): 「高知県レッドリスト (動物編) 2017改訂版」. pp.76

* 愛媛県総合科学博物館 学芸課 自然研究グループ
Curatorial Division, Ehime Prefectural Science Museum



図1 採集されたアマミサソリモドキ (EPSM-815-1)



図3 採集場所近くにあるカナリーヤシ



図2 アマミサソリモドキ生体 (2017. 11. 9)